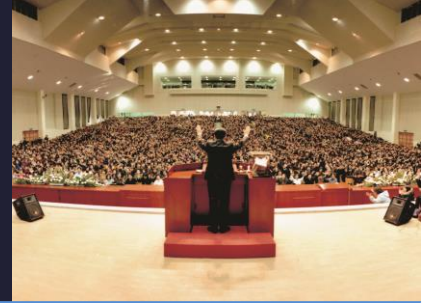


恵みと真理のニュース



2018 年 4 月の三次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】

父と母を救ってくださった神様、 毎日毎瞬間主に委ね幸せな人生を 生きるように導いてくださる神様に感謝します

一日を終える時間です。今日も朝を主の恵みで始まって、1 日を導いてくださり、一課を終えているこの時間、平安と安息を与えてくださった主を賛美します。私が恵と真理教会を仕え信仰生活してもう 20 年になりました。この平安な夜静かに受けた恵と愛を考えながら二番目であかしする機会を与えてくださった神様に感謝します。私は結婚して新婚旅行から帰って来てすぐ隣の家に住んでいる区域長から伝道されて水曜礼拝に初めて参席しました。はじめは教会の雰囲気になれなくて礼拝するのもなれなかったのですが、すぐ教会が私の家のように平安になり礼拝が楽しくなりました。一時期は水曜礼拝だけ参席しましたが続いて主日礼拝や月曜祈り会や金曜祈り会も参席し始めました。説教を全部理解できなかったのですが、幸せを感じる聖徒の中で一緒に祈って賛美するのが好きでした。切に心で神様に祈って賛美をさげると神様が共におられて私の祈りを聞いてくださるのが感じました。続けて説教を聞き神様の救いの愛を悟るようになり救いの確信を得るようになりました。すると、神様と離れては生きられなくなりました。私が教会に来て間もなく真実で愛が多い首区域長が区域長祈り会と伝道するときは私を連れて行かれま

した。毎日区域長について行くのが大変な時もありましたが、当会長の説教の内容の中で“従順が祭祀よりましだ”という御言葉を考えて熱心について行きました。その時は知らなかったですが、時間が経って考えてみると神様が私を愛して下さってその方々を私に送って下さって熱心に習い訓練したのを知り神様に感謝をさげました。区域長祈り会に参席しながら他の方は皆誇って区域長のカバンを持っていますが、私だけ違うカバンを持っているのが恥ずかしく思いました。それで区域長の職分を愛しながら神様に祈りました。新しい信徒と違いがない私が区域長のカバンの話をするとうれしいかもしれないから誰にも言わなくて一人で祈りました。“神様、私も区域長のカバンをください。私も持ち通したいです。”一日も休まずに神様に祈りました。神様は私の祈りに答えて下さって私が教会に通ってから 1 年がちょっと経ったとき区域長の職分を与えてくださいました。ハレルヤ！私は胸がいっぱいになって幸せです。区域長のカバンを持って教会に行くのが言葉で表現できないほどうれしいです。赤い区域長のカバンがどんなブランドカバンより好きです。今は首区域長の職分でカンナン聖殿で教会と聖徒達を仕えています。区域聖徒達に区域長の職分を愛しなさいといつも勧めています。昨年には私たちの区域で 3 人も区域長の職分を受けました。区域長達と共に伝道部に属して主日午後も熱心に福音を伝えています。区域長達と共にする時間が楽しい限りです。今まで私はイエス様を信じない家族の救いのため長い間祈りをしてきました。“わたしを呼べ。わたしはあなたに答え、あなたの知らない隠された大いなることを告げ知らせる。”（エレミヤ書 33：3）御言葉を掴んで祈りました。“二人

は言った。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。」”（使徒言行録 16：31）という御言葉を掴んで聖徒の見本を示すため力を尽くして伝道をしました。落胆しなくて神様を仰ぎ切に祈りました。そうしたら、神様が答えてくださり聖霊様が働いて下さって 3 年前、父がイエス様を受け入れた後、永遠な天国に召されました。

一か月前は母も教会に来て決信をしました。二人とも私が伝道することに“教会は通いなさい。そして、いちょうイエス様を信じるなら熱心に信じなさい。テレビを見るとそうではない人もいるから。”と話して福音を受け入れませんでした。そんな親でしたが、神様が二人とも肉体の弱さを通して福音に耳を傾けるようにして下さって神様の懐に呼んでくださいました。魂が新たに生まれかわるようにして永遠な命を与えてくださいました。

母はもうちょっと早く教会に来てなかったことを後悔して礼拝生活を頑張っています。私より多い時間を祈って賛美しながら聖書を読んでいます。教会で礼拝がない日には村の会館で行って伝道します。イエス様を信じ信仰生活をしてみたらとても良いとして教会行こうと強く誘っています。まだ、イエス様を信じない家族も神様がもうすぐ救ってくださるのを信じます。私を子供にしてくださいって主の御言葉と良い手と愛がないと生きられない福ある人生になるように導いてくださった神様に感謝します。毎日毎瞬間、主に委ね幸せな人生を生きるようにくださる主を賛美します。主の前に立つその日まで職分に忠誠を尽くして主の事に力を尽くします。主よ。愛します。



【信仰コラム】

神様の賜物

“あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によるのである。それは、あなたがた自身から出たものではなく、神の賜物である。...”（エペソ人への手紙 2:8, 9）

人が受けることができる賜物の中で何物とも比較できない最上最高の賜物があります。受ける人の運命を完全に変える相当な賜物です。それは神様が与えてくださる賜物です。人生の成功と失敗、幸福と不幸は神様の賜物に対する知識とその賜物に対する各人の態度如何にかけられています。

まず、神様が与えてくださる賜物が何であるかを調べてみます。

エペソ人への手紙 2 章 8 節に“あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によるのである。それは、あなたがた自身から出たものではなく、神の賜物である。”としました。救いの賜物はとても驚くべきで尊いことです。第一は、罪の許しを受けて正しくなることです。第二は、神様の子になることです。第三は、天国で永遠に福楽を享受することです。第四は、復活して変化した体を被るようになるのです。神様が与えてくださる神霊な賜物の中で聖霊で充滿になることと聖霊の恵みがあります。使徒ペテロは五旬節の日に集まった群衆に“悔い改めなさい。そして、あなたがたひとりびとりが罪のゆるしを得るために、イエス・キリストの名によって、バプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたがたは聖霊の賜物を受けるであろう。”と叫びました。神様が賜物として与えて

くださる聖霊の恵み九つがコリント人への第一の手紙 12 章に列挙されています。ローマ書 12 章には聖霊様がなさることが列挙されています。このような恵みは人が学んで努力して持つものではありません。神様の思い通り一方的に与えてくださる場合もあるが、また信仰で求める者に与えてくださる賜物です。

次に、神様が与えてくださる賜物を受ける方法について調べてみましょう。

神様が与えてくださる救いの賜物は信仰で受けます。神様が与えてくださる救いの賜物を人間の行為という代価を支払って得ようとするのが最も重大な誤りです。律法を守って行ったこと、

あるいは自分の功績と徳行という代価を支払って救いを得ようとする人がいます。しかし、救いは神様だけがなされることです。福音を伝えることは神様から救いを受けた信者達に与えられた特権です。傲慢で愚かな人生を低くさせ、悔い改めるようになさることは神様だけがなされることです。

神様が与えてくださる神霊な賜物をお金を払って得ようとする人がいます。ペテロとヨハネの按手でサマリアの信者達が聖霊を受けることを見たシモンがペテロにお金をあげながら“わたしが手をおけばだれにでも聖霊が授けられるように、その力をわたしにも下さい”と提議しました。するとペテロが“おまえの金は、おまえもろとも、うせてしまえ。神の賜物が、金で得られるなどと思っているのか。おまえの心が、神の前に正しくないから、おまえは、とうてい、この事にあずかることができない。”としました。聖霊を受ける

のは神様の賜物です。神様が与えてくださる救いと神霊な賜物をお金や人間の功労を支払って得ようとするキリストから断絶された者になり、滅びを免れません。

最後に、神様の賜物を受ける人が表すべきの望ましい態度を調べてみましょう。

一、感謝する心で受けなければなりません。二、その賜物を楽しむべきです。神様が与えてくださる救いと神霊な恵みによって幸いを感じて楽しむことが賜物を与えてくださった神様をあがめます。三、誇るべきです。神様の哀れみを被って助けを受けることを話すのは主の中で誇ることなので神様を喜ばせます。神様が与えてくださる神霊な賜物はこの世が与えることができず、奪うことができません。愛の賜物です。このような賜物に関する消息が福音です。神様が与えてくださる救いの賜物と神霊な賜物が何であるかを知って、この賜物を信仰で受けた皆さんは未だにこれを知らない人々に知らせるために力を尽くしてください。相当な賜物を与えてくださった神様に感謝を積極的に表現して、この驚くべきで尊い賜物を受けた者らしく常に喜びながら生きるよう祝福します。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」

右にも 左にも 曲ってはならない



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

エジプトから解放されたイスラエル人は、紆余曲折の末、神が彼らの先祖に契約されたカナンの地に入ることになりました。その過程で、イスラエルの子孫を指導する重大な任務を遂行した指導者がいます。モーセとヨシュアです。モーセは、40 年にわたってイスラエルの子孫を指導しました。モーセの生涯が終わると、ヨシュアは、イスラエルの指導者の地位を継承しました。神はヨシュアに言いつけれるのを「わたしのしもべ モーセは死んだ。それゆえ、今あなたと、このすべての民とは、共に立って、このヨルダンを渡り、わたしがイスラエルの人に与える地に行きなさい。あなたがたが、足の裏で踏む所はみな、わたしがモーセに約束したように、あなたがたに与えるであろう。あなたがたの領域は、荒野からレバノンに及び、また大川 ユフラテからヘテびとの全地にわたり、日の入る方の大海に達するであろう。」としました

そして続いて言われ、「あなたが生きながらえる日の間、あなたに当たることのできる者は、ひとりもないであろう。わたしは、モーセと共にいたように、あなたと共にあるであろう。わたしはあなたを見放すことも、見捨てることもしない。強く、また雄しくあれ。あなたはこの民に、わたしが彼らに与えると、その先祖たちに誓った地を獲させなければならない。ただ強く、また雄しくあって、わたしのしもべモーセがあなたに命じた律法をことごとく守って行い、これを離れて右にも左にも曲ってはならない。それはすべてあなたが行くところで、勝利を得るためである。この律法の書をあなたの口から離すことなく、昼も夜もそれを思い、そのうちにしるされていることを、ことごとく守って行わなければならない。そうするならば、あなたの道は栄ええ、あなたは勝利を得るであろう。わたしはあなたに命じたではないか。強く、また雄しくあれ。あなたがどこへ行くにも、あなたの神、主が共におられるゆえ、恐れてはならない、おののいてはならない」(ヨシュア記 1:5~9)しました

神がヨシュアに言われたお言葉には、約束と命令があります。これを分類するとこうです。四つの約束があります。

第一は、「モーセと一緒にいたかのようにあなたと一緒にいる。」

第二は、「私はあなたを離れず、私はあなたを見捨てないであろう。」

第三は、「あなたの生涯にあなたを勝つ者がないだろう。」

第四は、「あなたはこの民に私は彼の先祖に誓った地を得るであろう。」そして、3つの命令があります。

第一は、「心を強くして大胆なさい。」

第二は、「この律法の書をすべて守って行いなさい」

第三は、「右にも 左にも 曲ってはならない。」でした。今日はその中に「右にも 左にも 曲ってはならない」と、命令について見てみましょう

「右にも 左にも 曲ってはならない」という言葉を右にも 左にもない中間を意味するものと理解して何でも中立を保つことがいい教訓に、思うの人がいます。神はヨシュアに命じられたこの言葉は、中間や中立を意味するものではありません。都合主義や適当注意の处世術を言うことはありません。これは正道を超えないことを意味します。この言葉の前に「私の僕モーセがあなたに命じた律法をすべて守って行いなさい」と前提されている言葉を見ると、意味が明確にします。

神の言葉の通りに行いなさいという意味です。聖書は聖霊の感動を受けられた人たちが神から受けて言ったのを記録したものです。聖書の御言葉は、信仰生活の原則です。したがって、聖書の御言葉を守って行い 右にも 左にも 曲ってはならないください。

今日は、グローバル化の時代であり、情報化時代です。幅広い活動と高速情報伝達が容易になることで、政治家や実業家は世論調査と市場調査に多くの時間と労力を注いでいます。大衆迎合主義(ポピュリズム)は拒否できない傾向がされています。そして客観的基準や、絶対権威が排撃されて勝手に行うことを美德だと思ふ時代になりました。このような大衆迎合主義と多元主義の傾向がキリスト教会にも波のように押し寄せています

各々宗教の新概念、救い概念、罪の概念をみな收容して混合する包容主義、混合主義、宗教的多元主義の者は、個人の利益や人の賞賛と呼応を得るために、福音を混雑し、他の福音を伝えることもします。聖書には、このような人のために呪いがガラテヤ人への手紙 1 章に宣言されています。「それは 福音というべきものではなく、ただ、ある種の人があなたがたをかき亂し、キリストの福音を曲げようとしているだけのことである。しかし、たといわたしたちであろうと、天からの御使であろうと、わたしたちが 宣べ傳えた福音に 反することをあなたがたに 宣べ 伝えるなら、その人はのろわるべきである」(ガラテヤ人への手紙 1:7,8)

真理は妥協したり、譲歩する性格のものではありません。さらに、神が定められた救いの真理には議論の余地がありません。聖書に記録された 右にも 左にも 曲ってはならないという言葉を重ねる態度をとるものと理解していないようにする必要があります。一般的に、ギリシャの哲学や儒教という重用とは あることについて通り過ぎるか、あるいは不足に行う極端に偏らず適切な中間を取ることを指します。聖書に記載されて偏りのない態度とはそれとは異なります。その基準が絶対的な神の言葉を超えて 右にも 左にも 曲ってはならないことを意味します

油断して警戒心が緩みた教会を非聖書的教義と思想やこの世の風潮がどのように食い込んで変質させるのを似通った例について説明します。トロイの木馬の話です。ギリシャの軍隊がトロイ城を攻撃したが難攻不落であった。戦争は、10 年の間、継続されるが、なかなか結末が出ていない。すると、ギリシャ軍の蔣軍オディセオスは「木馬の企て」を考えて出した。木を削って馬の形を作り、その馬の中に非常に小さい軍人を隠して、ギリシャ軍は完全に撤退して帰国するようにしました。

これに気づかないトロイ軍はこの馬を戦利品として城の中に引き入れていただいた後、歓声をあげながら楽しんでいました。馬に隠れていたギリシャの軍人が夜中に静かに出てトロイの門を開いてしました。待っていたギリシャの軍隊が、最終的にどっと攻め行つてトロイ城を陥落させました

寛容と和合という名で非聖書的神学、異端、偶像宗教、世の文化や風俗を教会で受け入るのは、まるで戦利品を得たように装うが、これはトロイの木馬となってしまいます。クリスチャンの専有権は、神が定められたものです。神学者や牧師が定めたものではありません。「あなたはわたしのほかに、なにものをも神としてはならない」これは、創造主であり、絶対主権者である神が命じられた言葉です。「わたしは 道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない」これは、救い主イエスご自身が言われた言葉です。「この人による以外に 救はない。わたしたちを 救いうる名は、これを 別にしては、天下のだれにも与えられていないからである」これは、聖霊の感動を受けた、使徒たちが宣言した言葉です。クリスチャンは「聖書が行くところまで行って、聖書が停止ところで停止する」のを、原則に立って揺れがないはずで

教会の指導者が聖書の原則がないのか、過ちで無効か、揺れることは、教会を危機に陥れます。

米国のノースカロライナ州であった事件です。遊覧船が来たときに橋が上に上がりながら開かれる可動橋がありました。その橋の上に線路があつて、橋が上がらないときは、列車が通り過ぎたりしました。ところがある日、列車が橋の下に墜落した事故が起きました。橋が上がっているときに、列車が突進して行っている途中十八人の乗客が命を失った。事故の場所にあつたライダーは、明らかに列車が停止するように赤い信号機を横に振つたと主張しました。ところが、列車の機関手はライダーが白い信号機を振つたといいました

警察はライダーに問題の赤い信号機を示してほしいと要求しました。すると、事故の原因がすぐに判明しました。ライダーが振つた旗は赤い信号機だったが、変色して白い色だと勘違いするのに十分な色あせた信号機だったので。牧師や信者が聖書の原則を外れた色あせた旗を振るのは悲劇的なことです。クリスチャンは、聖書に記録された言葉による宇宙観、歴史観、国家観、教会観、人生観、価値観が必要です。この原則が揺れてはなりません。

聖書的な原則は、船の帆やキです。聖書の御言葉を信仰と生活の原則に視なければ帆もなくキなく、風が吹くまま波が吹くように行く船のようになってしまいます。クリスチャンは、世界の風潮、宗教界の風潮の通りさらってしまえばなりません。世論や大勢に押されて行つてもいけません。聖書に記録された原則に堅く立たなければ世俗、貪欲、異端、混合主義、宗教多元主義、宗教的に一致する、宗教統合運動の波に流されていくしかありません。あなたは大勢に従うのではなく、聖書の原則という帆とキがすべての波を超えて行くように、常に正し道で進む必要があります。聖徒の皆さんは、ただ心を強くして極めて大胆して、聖書に記録された言葉を信仰と生活の原則として 右にも 左にも 曲ってはならないようにしてください。